

英語教員 (サムライ) は必要か？ ChatGPT (黒船) と大学英語教育 (ニッポン) を考える

——英作文の添削事例から——

三 川 克 俊

Abstract

ChatGPT, an AI-powered interactive chat service, is poised to impact various professions, and English educators are no exception. According to media reports, among the 20 professions predicted to disappear, foreign language (English) instructors are astonishingly ranked third. In this article, we provide an overview of what ChatGPT can and cannot do in English learning at this point in time. We conducted an experiment where we had university first and second-year students write essays of approximately 100 to 150 words in English and then had ChatGPT review them. We subsequently compared and analyzed the results with the students themselves and also gathered free-form comments about the use of ChatGPT.

Upon reflection, we conclude that ChatGPT's editing capabilities are significantly faster and more accurate than those of human instructors. Furthermore, capable students can effectively engage in self-study based on ChatGPT's feedback. As a result, although it doesn't entirely replace the traditional role of English instructors, it undeniably necessitates substantial adaptation. The author likens ChatGPT to Commodore Perry's Black Ships and English educators to samurai. To coexist with ChatGPT in the future, English educators should consider engaging in team teaching with ChatGPT, instructing students on its appropriate usage, and guiding them towards autonomous learning.

Keywords: ChatGPT, college English education, second language writing & acquisition, error analysis, teacher's role, autonomous learning & learners

1. 対話型 AI の ChatGPT でできることとできないこと（英語学習の観点から）

対話型 AI（人工知能）のチャット GPT（Generative Pretrained Transformer）とは、一言で至極簡単にいえば、文字通り人と AI が対話するように自然な文章でやり取りができる AI のチャットサービスアプリのことである（詳細については清水（2023））。英語のみならず日本語でも指示を与えることが可能で、英日・日英の双方向の翻訳もできる。ほかのプラグイン（Voice Control for ChatGPT など）と組み合わせれば、若干タイムラグはあるが、音声認識も可能である。また、テキストの文脈における単語の意味の解説、用例も複数挙げてくれる。文法の解説、難解で長い原文などの言い換え、要約も文字数を指定して可能である。テキストの内容理解、単語・熟語、文法問題も作成してくれる（筆者も含め、授業ですでに活用している中学・高校や大学教員もいる。）。なんと文学作品の英訳（夏目漱石の『門』なども）も可能という。在日40年におよぶ東京大学名誉教授のトムガリー氏によれば、最新の ChatGPT-4（有料版）は、人間のプロの翻訳家と遜色ないレベルだという。これらはすべてパソコンのみならずスマホでも無料で利用可能（2023年8月現在）である。

将来的には、別のアプリなどと組み合わせれば、自分のお気に入りの AI のアバター（例えば初音ミクのような）教師による英会話レッスンも可能となるという（有料ですでに存在しているようだが、現時点で筆者は知らない）。日本人はおしなべてシャイで、集団だと人の目を気にするので、自分から発言しようとせず、結果、英会話が上達しにくいと言われるが、ChatGPT は、こちらが拙い語学力でも無限に付き合ってくれる。すでに AI を活用したプログラムの英会話レッスン（早稲田大学）なども始まっているという（澤木 2023）。以上、筆者の限られた経験と見聞から英語学習における ChatGPT の有用性を簡単に述べたが、以下 ChatGPT 自身に英語学習でできることとできないことを答えてもらおう。

ChatGPT は英語学習においてさまざまな役立つことができますが、一方で制限も存在します。以下に、その詳細を説明します。

ChatGPT ができること：

1. **文法と語彙のサポート**：ChatGPT は、英語の文法や語彙に関する質問に答えたり、語彙や文法の正しい使用法を提案したりするのに役立ちます。
2. **リーディングコンプリヘンション**：英語のテキストを理解し、質問に対する回答を生成するのに役立ちます。英語の記事やテキストを読んだ後、理解度を高めるために質問を投げかけることができます。
3. **ライティング支援**：エッセイ、レポート、メール、その他の文章を書く際に、アイ

ディアの生成や文の構築に役立ちます。また、文法的な修正や表現の改善にもアドバイスを提供できます。

4. **英会話練習**：ChatGPT は英語での対話パートナーとして機能し、日常会話からビジネス会話まで、さまざまなトピックで会話を行うのに役立ちます。
5. **語彙の拡充**：ChatGPT は新しい語彙を学び、適切な文脈での使用方法を提案することができます。

ChatGPT ができないこと：

1. **リアルタイム発音評価**：ChatGPT はテキストベースのモデルであり、発音の評価や発音の向上には役立ちません。発音の練習には別のツールやアプリケーションが必要です。
2. **文脈に基づく対話**：ChatGPT は一回の対話セッション内での文脈を理解しますが、長期的な対話履歴を持っていません。それゆえ、より長期的な文脈に基づく対話を行うのは難しいです。
3. **文化的なニュアンス**：ChatGPT は文化的なニュアンスや地域ごとの言い回しを理解するのは難しく、場合によっては誤解を招くことがあります。
4. **教育的なフィードバック**：ChatGPT は教育者や専門家の代替手段ではありません。英語の教育において個別の指導とフィードバックが重要です。
5. **宿題の代替**：ChatGPT は宿題の完全な代替手段ではなく、学習者は実際の練習と教材の理解を優先すべきです。

英語学習において、ChatGPT は強力なツールであり、さまざまな方法で役立つことができますが、完全な教育プログラムの代替ではなく、補完的なリソースとして使用されるべきです。

本稿では、ChatGPT による学生の英作文の実際の添削例と、学生自身によるコメントを実例として、今後の大学英語教員のありかたを考える。

2. 大学生の英文エッセイと ChatGPT による添削、およびその添削についての学生本人のコメント（原文ママ）

2-1. ChatGPT による添削事例

筆者の担当する英語を専攻としない 1, 2 年次一般教養英語必修 4 クラス（合計 159 人、1 クラス平均 40 名）の学生にテキストから自分の書きやすいトピックをひとつ選ばせ、それについて最低 100 語以上 150 語以下で英語でエッセイを書かせた。この段階では、翻訳ソ

フト (Google 翻訳や DeepL) などの使用は認めなかった (辞書等の使用は認めた)。そのエッセイを誰でも使用できる無料版 ChatGPT3.5 に添削させた訂正版の合計 2 種類, および添削されたものについての自由意見を提出させた。ChatGPT の使い方や添削のやり方 (プロンプト (指示) の出し方) に関しては, 授業中に筆者がデモンストレーションを行い, アカウント作成などの技術的な使用手順についても説明したが, 補足として YouTube などで ChatGPT に関する短い解説動画を見るように勧めた。これらについても教員が具体的な動画をいくつか紹介した。ほとんどすべての学生は ChatGPT を使用した経験がなかった (2023 年 7 月時点) が, ChatGPT の使い方に関して質問等は全く出なかった。以下に添削の具体例とコメントをいくつか紹介する。

事例 1.

(学生の原文)

I chose this story because gender problem has been discussed in the world and the problem is one of my interest topics. Gender-related issue is so serious and delicate. There are a lot of affairs and cases of discrimination. Firstly, what I thought was there are many people who don't respect the diversity like sexual orientation or gender identity, however, I didn't surprise by the Parental Rights in education Bill, called "Don't Say Gay" bill by critics. I'm against the bill and I have an objection. Frankly speaking, I don't understand the opinion that parental rights are more important and must be placed much value. In my opinion, students must be put importance than their parents in school, and of course their diversity have to be protected by school. Children are not the property of their parents, have their will and have to be treated equally as parents at the least.

(ChatGPT による添削)

I chose this story because the issue of gender problems has been widely discussed worldwide, and it is one of my interesting topics. Gender related issues are incredibly serious and delicate, with numerous instances of discrimination and injustices.

Firstly, I have observed that there are many individuals who do not respect diversity, such as sexual orientation or gender identity. However, I was not surprised by the parental Rights in Education Bill, also known as the "Don't Sar Gay" bill, criticized by many. I am against this bill and I strongly object to it.

To be frank, I fail to comprehend the opinion that parental rights are more important and should be given greater value. In my opinion, students should be prioritized over their parents when it comes to school matters, and their diversity must be protected by the school. Children

are not the possessions of their parents; they possess their own will and should be treated equally, at the very least, as their parents are.

(学生のコメント)

1 文目で **issue** と **problem** が同時に入っていて同じ意味なのになぜ区別して存在しているのか気になり調べたら、ネイティブからするとニュアンス的に微妙に違うようで、**issue** は議題や話題など議論すべきことで **problem** は少しネガティブなニュアンスが混ざっており、不具合や課題などに用いられるそうである。つまり、問題(課題)は **issue** があるから **problem** となるような感じでそれぞれ使い分ける。

ChatGPT で添削された文章では、副詞がたくさん使われており、私が考えた文章よりもより自分の主張が強調されているなと感じました。また副詞の重要性に気が付きました。

自分の文章の 2 行目の 2 つの文章を **with** でつなげることによって、簡潔ですっきりした文に変わったなと思いました。

3 行目の **People** が **individuals** に変えてあるところが、なぜあえて個々に焦点を当てているのか不思議に思いました。

ChatGPT による文章の 6 行目の **criticized by many** で、自分は批評家という意味合いで **critics** を用いていたので少し意味合いが変わってしまったと思いました。

私は「できない」と伝えたいとき、**can** を使うことがほとんどだが、**Fail to** を使う手もあるなと学びました。

Understand を少し難関度の高い **comprehend** に変えることで質の良い文章に変えることができているなと感じました。

重要視するべきという部分が添削された文章のほうでは **prioritize** が使われていて、私は **priority** しか知らなかったので調べるまで、**priority** が派生した単語であることに気が付きませんでした。また、1 単語で優先する、させるということを表現することができて実用性のある単語だなと思いました。

最後から二番目の文中の所有物という言葉を表現するのに、**property** と **possessions** で迷い、前者を選びましたが、添削版では後者が用いられていました。疑問に思い、ネイティブによる解説を見たところ、**possessions** は小さいもの、例えば時計などに使い、**property** は範囲が大きいようなものに対して使っているそうである。私の文では物ということ強調しなかったので、**possessions** を選ぶべきだったのかなと思いました。

事例 2 :

(学生の原文)

The families of some of the victims of the Sandy Hook Elementary School shooting in 2012 filed a suit, they agreed with a gunmaker that have gun used crime to pay \$73 million to them.

But I think that assuming liability for the gunmaker has both good and bad thing.

A good thing is the number of guns in United States decrease because of fear that arms within the company are used by murderers. Besides, gun manufactures come to investigate whether buyers are proper person.

Conversely, a bad thing is gunmaker and rapid gun keeper who oppose the action are likely to rise in rebellion and demonstration.

Having said that, this litigation is accelerating the gun control so cruel crime like this will decrease in the future. And it will lead to avoid losing precious family or friends.

(ChatGPT による添削)

The families of some of the victims of the 2012 Sandy Hook Elementary School shooting filed a lawsuit and reached an agreement with a gun manufacturer, holding them liable for producing a gun used in the crime and requiring them to pay \$73 million in compensation.

However, I believe that assuming liability for the gunmaker has both positive and negative implications.

One positive aspect is that it may lead to a decrease in the number of guns in the United States due to the fear that firearms manufactured by the company could be used by murderers. Additionally, gun manufacturers may conduct stricter investigations to ensure that buyers are suitable individuals.

Conversely, a negative consequence is that the gunmaker and avid gun rights supporters who oppose such actions are likely to rise in rebellion and engage in demonstrations.

Having said that, this litigation is accelerating the conversation around gun control, which could contribute to a decrease in such tragic incidents in the future. Ultimately, it may help prevent the loss of precious family members or friends.

(学生のコメント)

自分で作成した英文と ChatGPT で添削した英文を比較すると、より伝わりやすくするための英語の言い回しであったり、より簡潔に言い表していたりと、文章に多くの異なる点が見られた。例えば、「犠牲者の家族と銃のメーカーが合意する」という意味の文章で、このとき私は「～と合意に達する」を“agree with”を使って英文を作成したが、添削文は“reach an agreement with”が使われていた。“agree with”だけでは「達する」という意味は含まれないことを理解した。次に「良い点と悪い点」の言い表し方に着目した。私は“good”と“bad”で良い悪いを表したが、添削文では“positive”と“negative”と

表されていた。そこで詳しく調べてみると、アメリカ人は悪い点を“bad thing”と素直に言わないということが分かった。“bad”の代わりには“negative”や“not so good”など、直接的な言い回しをしないような言葉がよく使われるようだった。このような点から ChatGPT では、良い点悪い点を“positive”と“negative”を使って英文を作成しているのではないかと考える。また、副詞におけるニュアンスの違いについても理解が深まった。「加えて、さらに」という意味で私は“besides”を使ったが、添削分では“additionally”であった。そこでこれらについて調べると、“besides”は主に「それに」というニュアンスを持ち、フォーマルではなくカジュアルな表現であることが分かった。対して“additionally”は「加えて」というニュアンスであり、“as well as”や“in addition to”と近い表現であった。“besides”よりもフォーマルな響きがあり、文頭や文中で情報を付け加える時によく使われるようだ。それを踏まえて考えると、確かにここでは“additionally”を使った方が良いと感じた。

このように、ChatGPTでの添削を通して、日本語で文章を作成するときの文の構成の仕方や、言い回し、表現の仕方などは英文を作るときには少し構成を変えたり、違う表現をしたりすることで、より相手に伝わりやすくなる文章を作ることができることがわかった。英語には同じ意味を表す言葉でも、ニュアンスが少しずつ異なるものが多いので、それらの使い分けがうまく出来るように勉強していきたい。

事例 3 :

(学生の原文)

Japanese should introduce homeshare such as U.K. There are two reasons.

First reason is that it is necessary for the elderly to live with flatmates. When elderly people slip or get injured, they need the person who help them. Moreover, talking with people leads to maintain their mental health. If they are able to take care of physical and mental health, they will spend their time comfortably.

Second reason is that young people can get benefits by living with the elderly. Elderly people have had a lot of experiences. Therefore, young people are able to gain valuable knowledges. Furthermore, sharing a home leads to save money and young people can use it on their hobby.

In conclusion, Japanese people have to share homes.

(ChatGPTによる添削)

Japanese should introduce homeshare programs similar to those in the U.K. There are two reasons for this.

The first reason is that it is essential for the elderly to live with flatmates. When elderly people slip or get injured, they need someone to help them. Moreover, engaging in conversations with others helps maintain their mental health. If they can take care of their physical and mental well-being, they will be able to spend their time more comfortably.

The second reason is that young people can benefit from living with the elderly. Elderly individuals have a wealth of experiences, allowing young people to gain valuable knowledge. Additionally, sharing a home enables cost-saving, which young people can then use for their hobbies.

In conclusion, Japanese people should consider adopting homeshare programs.

(学生のコメント)

「～のような」を such as と表現したが添削した結果 similar to に直された。Like か such as のどちらにしようか悩んだが similar to という表現は頭になかったため今後使っていこうと思う。Necessary が essential に添削されていたため違いを調べたところ necessary は特定の目的や目標を達成するために必要なものであり、essential は必要不可欠なものや重要なものを指すということがわかった。確かに高齢者にとって同居人は目的を達成するために必要というより、必要不可欠なものという方がふさわしいと思った。それと同時に ChatGPT が文章全体の意味から合う単語を選択できることに驚いた。また、talking with people が engaging in conversations with others となっていて簡単な単語の組み合わせから熟語も取り入れた英語になっていてこのような表現ができるようにもっと語彙を増やしていきたい。私は mental health という言葉を 2 回使ったが ChatGPT は 2 回使うのを避けて health well-being としていたり、2 回目の elderly people を elderly individuals としていたり言い表し方の幅が広いことに驚いた。「たくさん」と書きたいときに a lot of か many しか使ったことがなかったが a wealth of という言い回しもあると学ぶことができたのでそれも活用していきたい。今回の添削では単語の表現の仕方についての添削が多かった。しかし、一つだけ hobby を複数形にし忘れていたことについての添削があり悔しかった。これは語彙力の問題ではなく、見落としやケアレスミスなので次のレポートでは無くしていきたい。そして AI の技術がここまで進化しているとは思わなかった。これからもこの技術をいい方向に使用していきたい。

事例 4 :

(学生の原文)

Let give me my opinion on how to be happy on Blue Monday. There are various its own way to lift our mood when we depressed. For example, colors, watching little garden birds,

talking with someone and walking. Then, in my case, it's listening to music. I have three reasons. First, I can enhance a mood when I listened to cheerful melody song. Second, I can lift my mood to listen to positive words of song. At last, I can find calm resignation when I listen to my favorite singer's song. By doing so, I can lift my mood. As a result, I usually listen to music when I depressed.

（ChatGPT による添削）

Let me share my thoughts on how to be happy on Blue Monday. There are various ways to lift our mood when we're feeling down. For example, enjoying colors, watching little garden birds, talking with someone, and taking a walk. In my case, listening to music works wonders. I have three reasons for this. Firstly, cheerful melodies uplift my mood. Secondly, positive song lyrics have the power to elevate my spirits. Lastly, when I listen to songs by my favorite singer, I find a sense of calm acceptance. By doing so, I can improve my mood. As a result, whenever I feel down, I usually turn to music for comfort.

（学生のコメント）

自分の力で書いた文章と ChatGPT によって添削した文章を比較してみると、私が書いた文章では同じ単語や表現を繰り返し使っているのに対し、添削された文章ではそれぞれの内容や文の流れによって表現を変えていると分かりました。例えば、私は、“lift my mood” という表現を本文中で 3 回も繰り返し使っているのに対して、ChatGPT が添削した文では、“lift my mood” 以外に、“uplift my mood” や “improve my mood” という表現を使っていました。同じ表現ばかり使うのではなく、ニュアンスが異なる場合にはそれに合った単語を使えるようにしたいと思いました。他にも、見直してみると文法的にも間違っているものがあることにも気づきました。例えば、3 文目は始め方を ing 形で揃えるべきだったと分かりました。私は文字数を増やすために同じ表現を繰り返していたり、文が長くなるように単語数の多い表現を使っていたのに対して、ChatGPT を使って添削した文は私が書いた文と同じ単語数でした。このことから ChatGPT で書いた文章は内容に合わせて表現を変えていたり必要のない文を省略していて読みやすいことが分かりました。例えば、私は理由を説明する時に “when” を何度か使ったのに対して、ChatGPT では省略されていて、その方が簡潔でわかりやすいと感じました。加えて、文を書いている時にどのような表現を使っていいかわからない文や単語がいくつかあり、ChatGPT で添削してみることで新たな表現の仕方を知ることが出来て良かったです。特に、“works wonders” というイディオムは初めてみた表現で、奇跡を起こす、効果きめんである、という意味を表すと学べました。今回の課題を通して、ChatGPT で自分の文を添削することで新たに学んだことがいくつかあったので、これから英語で課題を

書く際には活かしたいです。

ChatGPT で添削されたものを一読すると、まったく自然な英語に添削されていることがわかる。しかもほぼ数秒から数十秒の間でこの作業をやっているのだからである。人間の教員（ネイティブであっても）であれば、添削の仕方にもよるが、数分から数十分は要するであろう。日本人教員であれば、文法的な誤りは直せても、コロケーションなども含め全体的に自然な英文になっているかどうかまでは、よほど熟練したバイリンガル（に近い）な教員でなければほぼ不可能だろう。しかも、学生の書く英文は意味不明な場合が多いが（学力にもよる）、ChatGPT はその意図を汲み取り（もちろん100%ではないかもしれないが）、よりよい自然な英文に直してくれている。つまり、キーワードが与えられていれば、それらの意味的つながりを膨大な学習データから予測し、意味がとおるように修正してくれているのである。

上記の課題では、ChatGPT による修正点は、意識的に学生本人に指摘、比較、分析させた。なぜなら、上記の学生のコメントにあるように、なぜ間違えたのかの修正点の分析がきちんとできているものは ChatGPT の添削をもとに自学自習をどんどん進めることが可能だからである。できる学生は、ChatGPT の添削で未知の単語や表現があれば、自分で辞書を調べたり、さらに ChatGPT に質問したりしている。つまり自己フィードバックができるということである（今井 2020）。学習者の側にこのような「気づき」ができれば、今まで英作文の添削作業に追われていた教員の仕事は不要となるだろう。

このような自己フィードバックを可能とするためには、高校までの基本的な単熟語、文法事項の習得が不可欠である。この土台がなければ、ChatGPT による添削を鵜呑みにするだけとなり、無益な作業と化してしまうだろう。また、ある程度の基礎はあっても、学習者の学力が低い、もしくは問題意識が低い場合もあまり有益な経験とはならないだろう。ChatGPT にレポート課題を丸投げし、そのまま提出するといったケースは論外だ。この点は、言うまでもなく学習者の明確な動機と不正をさせない厳密な指導が求められる。

2-2. ChatGPT についての学生の自由意見（原文ママ）：

（その1）：

チャット GTP を今まで使ったことがなかったので、今回チャット GTP を使ってみてとても感動しました。英文を添削してくれる機能まであるとは思ってなくて驚きました。また、自分の作った英文と添削の文字を入れるだけで添削してくれて、自分の作った英文の感想まで書いてくれて、すごい機能と出会ってしまいました。チャット GTP

で添削してもらった文章をみると自分が伝えたい文章と違うなと分かるので、自分の文章を再び見直す機会になったり、自分が使わない単語が出てきて調べる機会ができた。こうやって表現すればいいのかと学べることができたりと、とても良い体験でした。中学生や高校生では決まった英語の表現しか習わないし、大学でも英文を直してくれる人がいるわけではないので、いつも同じような表現を使っていましたが、これからチャット GTP を有効活用して自分の英語の表現力を伸ばしていきたいです。レポートの作成時に使うのはいけません、使い方を変えれば勉強道具のひとつになることが分かったので、チャット GTP と一緒に英語の勉強を頑張っていきたいです。今回、このようなレポートの課題がなかったらそのままチャット GTP を使うことはなかったと思うので、使う機会ができてよかったです。とても面白かったし、勉強になりました。

(その2)：

今回初めて ChatGPT を使用した。指示を出すだけで英文がすぐに添削され非常に驚いた。自分で作った英文の中でうまく表現することがむずかしい部分もあったが、添削後の英文ではその箇所がきれいに修正されており、生成 AI のすごさを実感した。生成 AI は今後さらに発展し広がっていき、多岐にわたって活用の幅が広がっていくだろうと推測される。もちろん、生成 AI に頼りっぱなしになることは本末転倒だが、うまく日常生活の中に取り入れつつ活用していけるようになることが望ましいと考える。現段階では ChatGPT を使用してレポートを作成する講義はほとんどなく、この課題は非常に新鮮だと感じられたが、ChatGPT を使用して課題を作成することが当然のこととなる時代がそう遠くないうちに来るのではないかと考えた。

(その3)：

ChatGPT の存在を受験期に知ることが出来ていれば、英文添削や、疑問に思った文章を教えてもらうことでかなり助けられていたのではないかと感じた。何冊も参考書を行き来しているよりも速く手軽に質問できていたのだろうと今回のレポートを通して感じた。

(その4)：

今回の課題で初めて ChatGPT を使用したのですが、私の英文エッセイを添削してみてその精度の高さに驚きを感じました。近年では我々の身近な生活にも AI が使われるようになってきました。このように簡単に文章を生成できるようになってしまうと、小中学生が夏休みに行く読書感想文や、大学のレポートや卒論などはいずれ AI が書いたのか人間が書いたのか見分けがつかなくなってしまうのだろうなと感じました。そのため、これから生きる我々に必要な能力は、人間にしかできないこと、例えば論理的ではなく情動的な判断能力なのかもしれないと私は考えました。

(その5) :

全体的にみて、ChatGPTは演説で語り掛けるように、キャッチーで機知に富んだ表現を持っている。私が英語を学んでいるうえでとても憧れる、お手本のような表現だ。添削してもらうのに回数制限があるけれども、無料で扱えることは学習者にとってこれ以上ない好機だと思う。ただ、英語学習とは文を書くことだけではない。公用語とする人たちとの会話や、ネイティブ圏のメディアを自分で判読する力を手にするのも目的にある。そのため対AIの添削作業だけではなく、対人間の直接的な学習も必要だ。昨今、「人間の仕事がAIに取って代わる」という考えがあるが、それはないと思った。そのためChatGPTはライティングのみ教えてくれるだけで、私は機械に頼らずとも人間として活躍できる分野は広いのだと身をもって感じたからだ。今回このレポートでChatGPTを使うまで、これほど自分の文章の完成度を上げられるとは思わなかった。また自分の文書を添削してもらって、思いつかなかった表現を見てみたい。

3. 英語教員の役割はどうなるのか？

3-1. 英語教員は危機感を持つべきである

外国語（英語）教員は、ChatGPTにより仕事を奪われる（かもしれない）20の職業のうち、なんと第3位にランクインしている（参考資料参照）。ハリウッドでは、俳優や脚本家らがAIに仕事を奪われるかもしれない、と危惧してストライキを継続中だ（2023年8月現在）。この問題を議論する前に、まず集団での対面授業の意義を改めて考え直す必要がある。コロナ禍で、オンライン授業が普及したが、私たちは、メリットとデメリットの両方があることを経験的に知った。大人数を相手にした一方通行の講義ならば、オンデマンド形式で倍速以上で聞いたほうが効率がよいし、不明な箇所は何度も聞き直せる、ということも賢い学生は気づいてしまった。知識を吸収するだけなら、従来通り、自分で本を読んだり、ネットで調べたりすればよいだけだ。リアルタイムでの双方向のオンライン授業では、チャット機能なども使え（周囲の目を気にして質問しづらい場合、教員に個別に質問できること等）、便利で対面授業に近い面もあるが、直接対面での緊張感や刺激に比べれば、やはり限界がある。プライバシーを優先してカメラをオフにしまえば、音声だけで、お互いの表情もわからない。ChatGPTは英語学習に関する限り、非常に優秀な家庭教師やアシスタントの役割を果たしてくれるが、やはり生身の人間ではない。感情的な刺激という点では、当然劣る。集団の対面授業における周囲の学生から刺激を受ける、というメリットも無視はできない。しかし、野球のバッティングセンターのマシンやテニス・卓球の壁打ちのようにひとりでトレーニングするには最適だ。

筆者の経験では、中学や高校の入門初級・中級までは対面の一斉授業のほうがよいように思われる。教員の主な仕事は、学習者に基礎的な英単・熟語や発音・文法など基に、基本的な四技能(といっても大学入試で問われることほとんどないため、時間の制約上スピーキングは手薄になりがちだが)を教え込むことだからだ。しかし、中上級以降の大学レベル(高校までに習った基礎的な英語を基にして、さらに高度な英語のインプットやアウトプットの段階)では、ChatGPTの出現により、教員の従来の役割は変わらざるを得ないのではないか、と筆者は強く案ずる。学生の英作文の添削例で見たように、学習者のアウトプットをほぼ完璧に添削し、学習者の質問にも倦むことなく答えてくれるからだ。従来、相手がいない場合のアウトプットの有効な方法として、「英語で独り言」や「英文日記をつける」などの方法が勧められてきたが、間違いを気にする学習者にとっては即座に修正してくれる相手がいないため継続困難な場合が多かった。スピーキングの前段階として、ChatGPT相手のライティングの練習は大変有効だ。野口悠紀雄氏は(一橋大学名誉教授)こう言い切っている。「文部科学省は、ChatGPTを用いて「英語で話す力の底上げを目指す」としましたが、この方針はナンセンスです。自分が書いた文章をChatGPTに添削してもらい、それを暗記する方式をとるべきです。」筆者もこの意見に全面的に賛成だ。ゆっくり考えて出てこない文章が対面でのリアルタイムの会話でとっさに出てくるわけがない。初心者の対面英会話であれば、単語をひとつでも発すれば言いたいことを相手が察してくれることがあるかもしれないが、非常に効率が悪い。メリットがあるとすれば、その場で発音やイントネーションを直してくれることだろう。しかし、この場合も日英の対照言語学や調音音声学などの知識をもとに、日英の発音の違いや音の出し方を解説し、かつ実演し練習させてくれる教員であればよいが、ただ“Repeat after me,”を繰り返す教員(日本人、ネイティブ問わず)であればプラグインを利用したChatGPTとの音声会話に軍配が上がるだろう。

3-2. ChatGPTに駆逐されるべき悪しき授業例

大学によってクラスサイズはもちろん異なるが、現在の3~40人(あるいはこれ以上)の一斉授業はおおいに限界がある。高校までは入試のためになんとか英語学習のモチベーションが保たれるかもしれないが、英語専攻や理系で英語が必須という学生以外は、大学入学以降は単位取得のためだけに嫌々学習をしている(させられている)学生も多い。入学時の英語力が大学生活4年間の中でピークの場合も珍しくない。これは学生だけの問題ではなく、教える教員の側に問題があることも多い。依然として、邦訳が存在するテキストの文法訳読、講読スタイルも一部存続している(DeepLなどの翻訳ソフトやChatGPTの翻訳能力の精度からすれば、このような授業は完全に淘汰されるべきだ)。教員はほとんど何もせず、映画などの映像を見せるだけの授業もある(日本語で映画の感想文を書かせ、しかもフィー

ドバックしないものもあるそうだ)。会話のクラスでは、ペアワークと称して、学生の人数が多すぎるため、教師の監督が行き届かず、生徒が日本語でおしゃべりするだけになっているケースもある。仄間ではあるが、学生の英会話能力が低すぎて、ネイティブ教員が英語でなく終始ほとんど日本語でしゃべり、「お金をもらって日本語の練習ができてハッピーだ。」とうそぶいていることもあるらしい。このようなケースはもちろん言語道断だが、すべて ChatGPT に任せたほうが良い類のものだろう。

3-3. 教員は ChatGPT と Team Teaching をせよ

今後、教員の役割はどう変わっていかなければならないのだろうか。現時点で筆者は明確な答えを持ち合わせていないが、イメージはこうだ。教員自らが授業で ChatGPT を積極的に活用し、学習者に適切な利用方法を教え、学習者のよき伴走者（コーチ）となること。学習者の意欲や動機を高めてくれる筋トレやダイエットのパーソナルトレーナーやマラソンコーチのような存在。知識であれば辞書機能も備えた生成 AI にかなうはずがないのであるから、教員自身の外国語学習の経験を生かし、外国語学習者としての限界を心得たうえで、学習者のよき相談相手となることだろうか。単にテキストの知識を一方向的に伝授するだけで、テキストの練習問題を指名し答えさせ、誤りを正す程度の授業を行っている教員は淘汰されていくだろう。ネイティブ教員の場合どうか？ 学生の英語を自然な英語に直す最も重要な英文添削の役割としては、ChatGPT で十分代用可能となるだろう。ただ、コミュニケーションの相手として、学習者に与える刺激という点からいえば、やはり生身の人間にはかなわない。本稿の冒頭の ChatGPT のできないことの回答にあったように、リアルタイムの会話では、発音（リンキングやリエゾン、イントネーションを含む）や発声の仕方、さらに間の取り方、表情、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションも重要な要素となる。ただ従来のように何十人ものクラスで、教員が一方向的に話すだけであったり、学習者同士が間違いだらけの英語でペアワークをするだけの会話授業であれば、ChatGPT を相手にひとりで会話練習をしたほうがはるかに効率的なことは間違いない。

3-4. 学生の評価はどうするのか

学生の評価の仕方も変化せざるを得ない。従来のように時間的余裕を与えて英語でエッセイを提出させるなどの方法はご法度となるだろう（ChatGPT 以前にも翻訳ソフトの使用やネットからのコピペなどの不正例や剽窃行為はあったが）。ChatGPT が作成したかどうかの検出ソフトも開発されてきているようだが、現時点では精度が低く、不正チェックのいちごっこが繰り返されるだけで、教員の負担はますます増加することが予想される。公正・公平性を期すならば、学生を集めてその場で書かせたり（パソコン使用を許可しても、もちろ

んネットから遮断しながらである), 口頭試問をするしかないだろう。試験や課題提出で ChatGPT の使用を認めている例も出てきているようだが, よほど実施方法を工夫しなければ公正かつ公平な評価は難しいだろう。

3-5. 英語界の藤井聡太を育てよう

学習者の自律学習に不可欠なものは, 第二言語習得理論の常識ではたった2つである。1. 多量のインプット(興味・関心があり, 学習者のレベルにあったものが必要)と2. 少量・適量のアウトプットである。後者の方法として, すでに述べたように一人でできるものとして, 独り言や日記などの方法があるが, フィードバックしてくれる相手がいないと継続困難であり, しかも個人で英会話や英作文の添削クラス(オンラインを含め)などを受講するには時間的制限や金銭的負担も必要だ。インプットに関しては, 音源であれ活字であれ巷に溢れていて, 学習者は自分にあったものを選ぶのに迷うほどである。アウトプットの練習相手として, やる気のある学生にとっては, ChatGPT は実用上, 人間の教師に十分代替可能となるだろう(本稿の学生の自由意見が雄弁に物語っている)。そして ChatGPT を上手く活用すれば, AI を駆使して将棋タイトル全八冠制覇に挑戦中(2023年8月時点)の藤井聡太のような若者が, 近い将来, 英語の世界でも出現するかもしれない。

4. 最後に(英語教育や教員へ与える影響について ChatGPT による回答)

ChatGPT は, 自然言語処理技術を使用して, 特定の入力に基づいてテキストを生成する言語モデルです。ChatGPT は, 語学(英語)教育に確実に変化をもたらします。外国語教育では, 訳読という形(タスク)から, エッセイやディスカッションなどの発信型タスクが広く導入されるようになりました。しかし, ChatGPT はこのようなタスクを簡単に(かつ, 多くの学生よりも正確に)処理することができます。また, 対話型 AI の登場は学生がいつでも相談できる教員と同級生を得たことを意味します。これによって, 一人一人にカスタマイズされた教育や学習の可能性も見えてきました。この先, 外国語(英語)単位が必修でなくなることもありえます。

(参考資料) ChatGPT などの言語モデルに仕事を奪われる危険性がある職業ベスト20
(<https://nazology.net/archives/123216>)

1. 電話勧誘業者 (Telemarketers)
2. 英語(国語)と英文学の教師 (English language and literature teachers)
3. 外国語と外国文学の教師 (Foreign language and literature teachers)

4. 歴史の教師 (History teachers)
5. 法律の教師 (Law teachers)
6. 哲学と宗教の教師 (Philosophy and religion teachers)
7. 社会学の教師 (Sociology teachers)
8. 政治学の教師 (Political science teachers)
9. 刑事司法と法執行機関の教師 (Criminal justice and law enforcement teachers)
10. 社会学者 (Sociologists)
11. ソーシャルワークの教師 (Social work teachers)
12. 心理学の教師 (Psychology teachers)
13. コミュニケーションの教師 (Communications teachers)
14. 政治学者 (Political scientists)
15. 文化研究の教師 (Cultural studies teachers)
16. 仲裁人, 調停者 (Arbitrators, mediators and conciliators)
17. 裁判官 (Judges, magistrate judges and magistrates)
18. 地理の教師 (Geography teachers)
19. 図書館学の教師 (Library science teachers)
20. 臨床心理医, カウンセリング, 学校心理学者 (Clinical, counseling and school psychologists)

参考文献

ChatGPT: <https://openai.com/blog/chatgpt>

Frances, C. and Giovanni Zimotti (2023) “Robots vs. Humans: Does ChatGPT Pose a Challenge to Second Language Writing?” <https://fltmag.com/chatgpt-second-language-writing/>

Ellis, R. (2008) *The Study of Second Language Acquisition* 2nd ed. Oxford Univ Press.

Gass, S. (2020) *Second Language Acquisition* 5th ed. Routledge.

Solis, T. (2023) “9 Ways to Use ChatGPT for Language Learning” <https://www.scribbr.com/ai-tools/chatgpt-language-learning/>

Gally, T. (2023) “Using ChatGPT for Language Learning” https://www.youtube.com/@Tom_Gally_UTokyo

Weller, D. (2023) *ChatGPT for Language Teachers: The Ultimate Prompt Handbook for AI Productivity*. Stone Arrow Publishing.

甘利俊一 (監修) (2022) 『AI 新世 人工知能と人類の行方』文藝春秋.

葵あすか (2023) 『ChatGPT 超英語学習法』Independently published.

和泉伸一 (2009) 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』大修館書店.

今井むつみ (2020) 『英語独習法』岩波書店.

今井むつみ, 秋田喜美 (2023) 『言語の本質——ことばはどう生まれ, 進化したか』中央公論新社.
英語教育 別冊 (2023) 『授業・校務の効率 UP! 英語教師のためのアナログ×デジタル活用ガイド』大修館書店.

岡野原大輔 (2023) 『大規模言語モデルは新たな知能か——ChatGPT が変えた世界』岩波書店.

金丸敏幸 (2023) 『ChatGPT が語学 (英語) 教育に与えるインパクト』国立情報学研究所.

英語教員（サムライ）は必要か？ ChatGPT（黒船）と大学英語教育（ニッポン）を考える

- 小嶋英夫，廣森友人（編）（2010）『成長する英語学習者——学習者要因と自律学習（英語教育学大系）』大学英語教育学会（監修）大修館書店。
- 齋藤孝（2023）『超 AI 時代の「頭の強さ」』KK ベストセラーズ。
- 澤木泰代（2023）「対話 AI を搭載したテストでできること」『[雑誌] 英語教育 8 月号』p. 39. 大修館書店。
- 島田勝正（2022）『「気づき」をうながす文法指導——英語のアクティブ・ラーニング』ひつじ書房。
- 清水亮（2023）『教養としての生成 AI』幻冬舎。
- 白井恭弘（2008）『外国語学習の科学——第二言語習得論とは何か』岩波書店。
- 白井恭弘（2023）『英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版』大修館書店。
- 隅田英一郎（2022）『AI 翻訳革命——あなたの仕事に英語学習はもういらぬ』朝日新聞出版。
- 平和博（2023）『チャット GPT vs. 人類』文藝春秋。
- 竹内理（2007）『「達人」の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』草思社。
- 多聴多読マガジン編集部（2023）多聴多読マガジン2023年6月号 [雑誌] 『無料 AI ツールを英語力強化に使い倒す』コスモピア。
- 谷口恵子（2023）『AI 英語革命—— ChatGPT で英語学習を10倍効率化』リチェンジ。
- デイビッドセイン，今泉麻衣子，原貴浩（2023）『これからの英語学習の話をしよう！ AI が変えた英語教育の新常識』InteLingo。
- 中田達也（2022）『英語学習の科学』研究社。
- Newton（ニュートン）2023年7月号 [雑誌] ——特集 Newton Special 劇的に進化した「対話 AI」ChatGPT の衝撃 ニュートンプレス。
- 野口悠紀雄（2023）「ChatGPT で英語を勉強する方法を教えます——書いて、添削受けて、暗記する文科省「話す力の底上げ」はナンセンス」<https://gendai.media/articles/-/115264>
- 野口悠紀雄（2023）「ChatGPT は「貧者の家庭教師」，教育の世界はこれを禁止・制約するのではなく積極的に活用すべきだ」<https://gendai.media/articles/-/113512?imp=0>
- 野口悠紀雄（2023）「ChatGPT は、やはり教育の根幹をゆるがす——問題は不正利用ではない，勉強や専門的知識の中身が大きく変わることだ」<https://gendai.media/articles/-/113301>
- 廣森友人（2023）『英語学習のメカニズム——第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法 改訂版』大修館書店。
- 古川渉一，酒井麻里子（2023）『先読み！ IT × ビジネス講座 ChatGPT 対話型 AI が生み出す未来』インプレス。
- 村野井仁（2006）『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店。
- 山本康正（2023）『アフター ChatGPT 生成 AI が変えた世界の生き残り方』PHP 研究所。
- 吉井理人（2021）『最高のコーチは、教えない。』（ディスカヴァー携書）新書。
- 吉田壘（2023）『ChatGPT を教育に取り入れる——アイデアと留意点』国立情報学研究所。